

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和5年12月21日(木) 発行人：校長 森内 秀学

総括 2学期

「2学期は あふれた『たい』の そのあとを」。9月1日に発行した本紙トップ記事のタイトルです。「思いや意欲を行動につなげよう!」というメッセージでしたが、ご家庭や地域での子どもたちの様子はどうだったでしょうか。

★ユニセフ募金★

16042円を集めることができました。
ユニセフ募金のご協力
ありがとうございました。
かやが5つ買えます。



これがかやの画像です。



学校の方はというと、二つの顕著な成果が見られました。

一つ目は、つなげた先に見事な結果が表れたことです。

代表的なものは、左。10月31日発行の本紙で紹介した募金活動で、「かや」が5つ買えたことをお知らせするポスターです。呼びかける→選ぶ→決める→頼む→知らせる という一連の流れを自分たちでやり遂げました。子どもの力でも、世の中の誰かの役に立つことができるというこの体験は、思いやりや勤労意欲等につながる大事なことだと思います。

二つ目は、つながったことで学びの成果が出てきたことです。

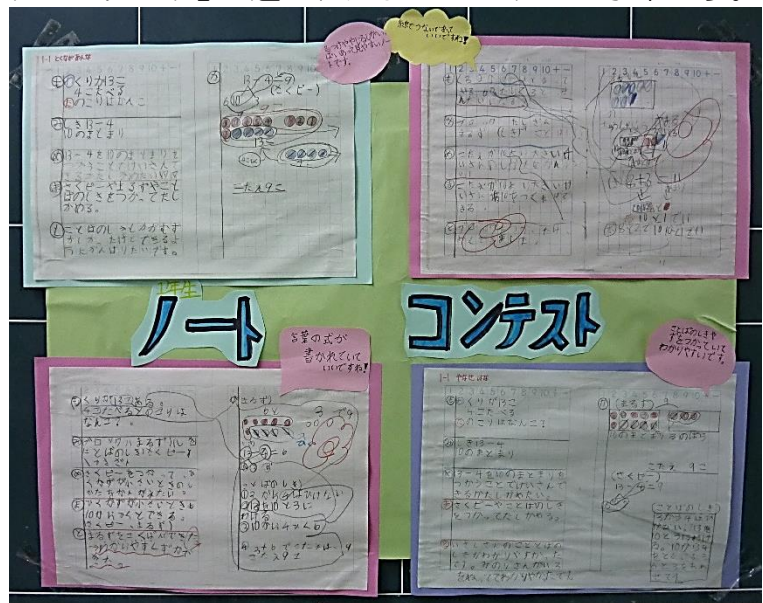
代表的なものは、右。これは、「ノートコンテスト」で選ばれたよいノートのお手本です。

写真は1年生の分ですが、全学年、廊下に掲示してあります。

驚くのは、このコンテストの企画が、児童会だという点です。「勉強は、親や先生から無理やりさせられるもの」というのは昔の考え。時津小の子どもたちは、自分たちが賢くなるための企画を、自分たちで立ち上げています。

しかも今回は、事前にどのような書き方がよいのかということを経験が子どもに指導し、それに見合った書き方をした子どもが選ばれています。

言わば、「子どもと教師の融合型」。選ばれたノートの周りには、企画学習委員会の子どもたちの温かい吹き出しも書き加えられています。本当に立派な取組だと思います。



行動に移すところまで子どもに任せると、うまくいくのか冷や冷やします。でも、そこを我慢して育てると、子どもは大きく成長します。これは、家庭でも地域でも同じです。足並みを揃え、子どもを信じて任せながら育てていきましょう。それでは、よいお年を。